

2018 11/13

No.2078

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —

第67回 神奈川文化賞・スポーツ賞贈呈式



神奈川新聞

神奈川の文化とスポーツの発展に功績のあった個人や団体に贈られる「第67回神奈川文化賞・スポーツ賞」の贈呈式が文化の日の3日、県民ホールで行われ、9人1団体が表彰された。



contents

視点・点描	3
ICT連携の試みに期待	
経 済	4
意外と知らない「ふるさと納税」 人生100年時代のマネー設計①	
政 治	6
「防災省」浮上で影響も ポスト復興庁、検討本格化	
社 会	8
「デザイン思考」で地域活性化 集客・購買施策に効果	
くらし2018	10
企業主導型保育所、大幅定員割れ	
企業最前線	12
清掃ロボの試験導入が活発化 オフィスビルや商業施設で活躍	
アジアの風	14
南北首脳の「おじぎ」	
NNAアジア経済レポート	15

事務局だより

◇2018年11月定例講演会
2018年11月15日(木)
午後1時30分～3時
ロイヤルホールヨコハマ5階
「リビエラの間」
講師はプロデューサー、クラブ・ウィルビー代表の残間里江子さん
演題は「時代を読む力～女性・シニアの活躍、ハラスメント事情～」

◇2018年12月定例講演会
＝シンポジウム・交流会
2018年12月10日(月)
横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ
▽シンポジウム
午前11時～午後0時30分、4階「清流Ⅱ」
パネリストは共同通信社の松浦基明・政治部長、高橋直人・経済部長、近澤守康・外信部長、山田昌邦・皇室取材チーム長。コーディネーターは神奈川新聞社の林義亮・取締役論説主幹
演題は「2019年の動向を読む」
▽交流会
午後0時40分～1時40分、4階「清流Ⅰ」

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページ(www.kanagawa-seikon.jp)に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎ 045 (226) 2121。

視点 点描



ICT連携の試みに期待

人工知能（AI）やビッグデータ、モノのインターネット（IoT）などの言葉が経済ニュースにぎわっている。中小製造業者には一見縁遠そうな、こうした情報通信技術（ICT）を活用しようという取り組みが、川崎市で続けられている。「ものづくり×ICT連携」で、市と市工業団体連合会、市産業振興財団、県情報サー

ビス産業協会が進めている。ICTを生産ラインに活用して生産性向上を図ったり、両者が協力して新製品や新事業を開発したりするのが目的だ。ドローン（小型無人機）を使って新ビジネスを模索する研究会も続けられている。こうした動きの中で、10月に川崎区内で開かれたフォーラムで、モデル事業として発表された

二つの取り組みに注目している。

一つは、職人的な技術が高いとされる中小企業のものづくりの後継者育成、技術伝承の効率化の試みだ。市内には、熟練した技術者に支えられ、その分野で全国トップクラスという中小企業が多く、

その後継者の育成は大きな課題になっている。例えば溶接工場では、熟練工は図面を見て、そこから完成品を想像して作業ができるが、若い作業員は図面を読めず、半期で16件100万円以上の損失を発生させた例もあるという。

この課題に取り組んでいるのは、映像系のベンチャー企業AC WIDE P（幸区）など。拡張現実（AR）や、人の動きなどをコンピューターに取り込むモーションキャプチャーなどを駆使し、図面から完成品の立体画像を作ったり、熟練職人の動きをアニメーション化して教材化したりす

る作業を続けている。同社の山口聡社長は、「昔なら『見て覚える』と言っていたが、今は通用しないから」と強調する。

もう一つは、センサーと勤怠管理システムを組み合わせ、うつなど心の病を予防するシステム開発だ。ソフトウェア会社のマインド（幸区）は、医療機器製造会社のアステム（高津区）が開発したセンサーのような形で、前頭葉の血流変化が見えるセンサーに着目。自社の持つ勤怠管理システムと合わせ、労働状況と血流変化のデータを集積して関連を調べ、心の病への危険信号を把握し、予防に役立てようというものだ。

いずれも完成はそう遠くないという。こうした成功例は、全国の中小企業へ励みにもあると思われる。川崎の試みに期待している。

（神奈川新聞社川崎総局長

瀧村 誠）